

1. 調査報告概要表

作成日 2007年12月6日

【評価実施概要】

事業所番号	2170400465
法人名	有限会社 夢家族
事業所名	グループホーム 夢家族・正木
所在地 (電話番号)	羽島市正木町新井4丁目945 (電話) 058-392-8740
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年11月24日

【情報提供票より】(19年11月12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	5.95 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷 金	有() 円) <input checked="" type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円) <input checked="" type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(11月12日現在)

利用者人数	7 名	男性	3 名	女性	4 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	いわたクリニック, 高田歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは主要道路より少し中へ入った静かで広い庭に畑がありとても環境のよいところにある。ホーム内も広い空間があり、共有の居間兼食堂も車椅子の方でもゆったりと移動できる落ち着いた家庭的環境が感じられる。ホームの理念は「安心感」であり、これが職員に浸透して利用者が安心して生活できるよう取り組み支援されている。ケアの取り組みは課題を一つひとつ改善する形で進められ職員も成長していることが実感できる。今後も着実にケアの向上を図り、利用者とともに地域に根ざすことを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点は、5点あったが、毎月1回職員会議が全員で行われ、運営に対する意見やケアプランに対する検討、運営理念の浸透が行われている。グループホーム独自の理念を作成、かかりつけ医等への定期的受診など、積極的な改善の取り組みがなされている。鍵をかけない工夫と、食事を楽しむことの出来る支援については、より一層の改善に向け検討を継続している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、全員の意見を聞いてありのままに行った。その後、サービスの視点に沿って、利用者の特徴を考えつつ、話し合いの上、積極的に取り組んだ。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口は管理者で、意見箱も設置されている。又、ホームの玄関にも掲示されている。月1回家族とも連絡が取られ、面会時には希望や意見を聞いて、運営に反映されるよう努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者の日常生活における方針は普通の一人の人間として暮らせるよう能力に合わせて支援されている。町内会に入っているため、回覧板等を利用し地域の行事活動へ参加する機会を作り、地域との交流を深めていきたい。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は「安心感」を掲げ、地域の中で、その人らしく暮らし続けていくサービスとして、事業所独自のケア理念を述べている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員に理念に対する考えをマニュアル化し、日常のサービスの中で、指導し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、町内会に入り、会費も払っている。ホーム新聞を配布しているので、来訪はある。これからは、地域活動にも参加し、さらに交流を深めていきたい。	○	老人会のゲートボール、敬老会、運動会や清掃活動への参加など、地域の一員としての交流が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については評価に対する理解を深め、具体的改善目標を掲げて具体的改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は外部委員を含め、定期的に利用者の状況や、サービスに関する情報提供を行い、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	事業所は、市町村の担当者とは、会議以外でも常に連絡し、相談や話し合いが出来る。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月1回「生活だより」ホーム新聞を郵送し、個々の家族へ健康や、暮らしぶりを報告している。金銭については、本部から行っている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情相談窓口は、管理者になっており、意見箱もあった。家族の意見を運営に反映させている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	事業主や管理者は、職員の離職は、信頼関係が出来ている利用者にとって、ダメージが大きい事を認識し、職員の相談にのるなどして、職員が替わることのないよう日頃から調整している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	事業所内外の研修を受ける機会が設けられているほか、個人的にも、知識や、技術の習得に取り組んでいる。職員の段階的に応じた育成するための計画を立てているところまでは行っていない。	○	キャリアアップの為、管理者を含めた職員研修計画を作成し、取り組まれるよう希望したい。
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	事業主や職員は、同業者や、同系列との交流をする機会を作り、相互訪問等の活動を通じてサービスの質を向上させる努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族等の見学、他の利用者への紹介、利用開始後の面会など、徐々に馴染めるようにしている。持ち物も、危険な物以外は希望を聞いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴や、生き立ち等、考慮しつつ、普通の暮らしの中に、利用者と職員が支えあう関係作りに重点を置いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の立案や、見直し時は、利用者や、家族の意向を記録し、検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者が出来ること、興味のあることなど、一人ひとりに合った計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には6ヶ月の見直しをおこなっている。月1回のミーティングで利用者の状況変化を話し合い、体調の変化により対応が出来ない場合は本人・家族・主治医と職員の話し合いの上現状に合わせた計画の見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて通院介助をおこない又自宅訪問を計画し、仏壇にお参りに行く支援などがされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望される主治医受診の介助がされており、ホームのかかりつけ医は納得が得られた方には月2回の往診がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときの対応は、医師との連携を密にしながら家族・かかりつけ医・職員全体で話し合いながら出来る限りホームで対応、最後は医療面へつなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳に配慮し、本人を傷つけないように心がけ対応についてはミーティングで話し合っている。個人情報・記録・写真等の管理に注意している。食事時の声かけの大きさ、呼びかけ方が気になった。	○	難聴の方が多く色々な理由もあることと思われるが、今後声のトーンに気をつけられることを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちをくみながら時々個人的に銭湯に同行したり、時期になるとお花の球根を植えたい人の支援をするなど利用者主体の生活となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝える方は一緒に料理を作り、職員と共に食事をし、和気藹々と話しながら楽しんで食事をしている。ゆったりと最後まで食べている人を待ち、後片付けも手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者には入浴日以外でも入浴は可能で柔軟な対応をしている。色々な入浴剤を変えながら楽しんでもらえるようにし、「芯まで温まる様に」と声かけ、		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	場面やタイミングよく声かけすると自分から掃除などに参加したり、洗濯たたみ、調理の手伝い、野菜作り、お花の手入れなど得意分野を活かした役割と楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は、体調を見ながら天気良ければ全員毎日行い、日によっては朝と午後の2回行うこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関には鍵をかけず戸が開いたときに鈴が鳴るように工夫し、見守りがされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練が年2回計画され、厨房から火が出たという想定で利用者・職員・地域の方にも参加してもらい避難訓練をおこなった。	○	非常口が1つであり避難訓練の今後の課題とされたい。又非常食料・備品等も考慮されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの嗜好を取り入れ全て手作りの料理、バランスのとれた塩分控えめの献立、個々にあった刻み食やとろみを付けた食事を作り、食事量・水分摂取量もチェックして記録を付けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関まわりは改善されスッキリとなり、花も置かれソファが設置されくつろげる空間が出来ている。居間兼台所も広い空間があり車椅子の方もゆったり移動が出来、多目的ホールにも活用できる居心地のよい共有空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの物が置かれカーテンも好みものが付けられ、各部屋にはエアコンが取り付けられており、その人らしく過ごせる部屋になっていた。		